

## 機関紙とSNSの役割へ高まる期待

### －機関紙・宣伝交流会2019－

機関紙「自治体の仲間」編集長  
自治労連中央執行委員 武田 敦

2019年1月13日に自治労連第31回組織集會に合わせて「機関紙・宣伝交流会2019」を開催しました。

2017年から組織集會の2日目分科会として交流会を実施し、組織拡大と要求実現の重要な役割となる機関紙活動について、学習と交流をはかってきました。機関紙活動の活性化が、組織全体を活性化させることにつながるようレベルアップしていくことが重要です。

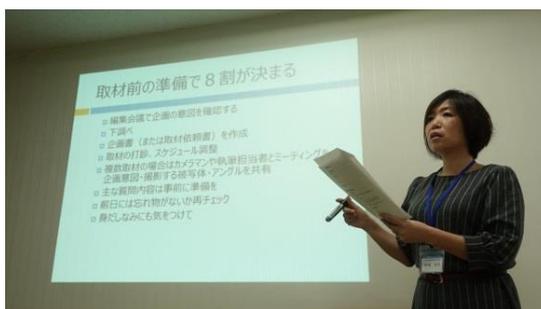
昨年から、交流会の時間を増やし講師を招いての学習と、参加者の交流を兼ねて、ペアやグループでワークショップを行っています。

#### 取材のコツを学んですぐにワークショップ

最初に、機関紙協会かながわ支部の御崎史子さんからの取材準備と取材当日に当たってのコツや、記録とメモづくりの重要性、記事の執筆について学びました。

参加者からは、「これまでの長年の取材経験を改めて整理し、理解するのに役立った。また単に一方的な抗議でなく、実習のように自分で考えさせ、点検させることでより理解が深まった「人と人をつなぐツール、労働組合は楽しさを感じながらすること。また、その楽しさを伝えることが機関紙の大切さと聞

き、勉強になりました」「事前準備の大切さを痛感した」「見出しの付け方について大胆に遊んでもいいんだということが学べた。これまでは文章を要約したものになっていた」と感想が寄せられました。



記事は「取材前の準備で8割が決まる」と事前準備の重要性を語る御崎さん

御崎さんの講義を終え、さっそくペアになって取材の練習へ。組んだ相手のことを、機関紙の紙面で紹介する記事をつくってもらいました。入職した動機や組合活動をするきっかけなどを聴き、それを実際の記事(400字)にまとめるワークショップです。ベテランでも短時間で執筆するのは難しいですが、アイスブレイクを兼ねて参加者が互いについて、紹介し合い交流することができました。



ペアになり、自己紹介を兼ねながら一方の取材に応える参加者

### SNSの重要性と注意点を学ぶ

午後、国公労連の井上伸さんから、国家公務員をとりまく現状や労働組合のとりくみを外に向けて情報発信していく重要性と成果、そして井上さんも作成に携わった全労連・国民春闘共闘委員会の「SNS活用のススメ」が紹介されました。学習後に、「労働組合の魅力をSNSで発信するとしたら、どんな内容で伝えるか」をグループワークで話し合ってもらいました。SNS特有の「短い文章」「目を引くタイトル」を意識しながらも、正しい情報かどうか、過度な表現ではないかに注意しながら、参加者は実際の読者（職場やネット）のことを思い描きながら議論しました。

参加者からは「若者の情報源が新聞やテレビではなくネットであるということは以前から言われていました。組合に加入するかどうかにも新採職員がLINEで情報を共有して決める（入らない方が多い）と聞いたことがあります。確かにSNSを労働組合も活用すべきですが、HP、ブログなどをつくってもほとんどアクセスがないのはなぜなのか検討していくことも大事ですね」「SNSのすすめ方、自分の単組ではどうすすめていくか課題を感じました」「もっとたくさんのお話を聞いてみたかった。自治労連でSNSの学習会を開いて

ほしい」「若い年齢はスマホが大切なのでSNSをよく見ているので確かに必要なものと思う。いろいろな人に拡散するので内容を十分検討する必要があると思った」「今からの組合活動ではHPやSNSの運用・活用も考えないといけない。自分の労組でもぜひやってみようと思う」「SNSの活用はわかるが誰が日々発信するのか？方針や体制の確立が必要かと思う」「SNSを有効に使えば組合員だけでなく世界中の方に現状を知ってもらうことが可能である。しかし炎上やバッシングなどもあるので運用には注意が必要である」と感想が寄せられました。



日常的にもSNSでの情報発信を進めている国公労連の井上さんの話は説得力がありました

### 互いに励まし合い「元気もらった」

交流会の後半は、午前中のペアワークで実際に作った取材記事を講師陣に講評して貰い、また全体で学んだことや機関紙活動の悩みやとりくみをグループで議論、意見交流し、各グループで交流したことなどを全体に発表して終了しました。グループでは参加者の仲間の悩みに、「こうしてみたら」「こんな記事つくったことがあるよ」と互いにアドバイスしていました。

「地方組織、職場をこえて討論するのは始めはとまどいますが、ある程度テーマやポイ

ントをしぼって議論すると内容が深まりますね。自分のところの問題点や課題が少し見えてくるような気がします。どこもさまざまな苦勞をしながらがんばっている姿に私も元氣をもらいました」「他単組の機関紙の改善をみんなで話し合うのはよかった。さまざまなアイデアを聞くことができた」「読んでもらうことの難しさ、みなさんそれぞれ苦勞されていることを知り、安心しました」「いずれまた以前のような単独の集会ができるとうい。来年もっと多くの新しい仲間を連れて行きたい」と参加者から感想が寄せられました。



#### 機関紙活動の悩みにアドバイスや自身の経験を話す参加者たち

機関紙づくりの担い手が全国的に少なくなっているなか、機関紙活動やSNSなどの錠右方発信の重要性は年々高まっています。横のつながりを広め、互いに励まし協力しながら、機関紙活動の充実を促進するとりくみが求められています。